

前書き

「文書作成のときの誤字誤変換をなくしたい…」

「変換候補で出てくる情報だけでは使いたい漢字を選べない…」

「一段上の、こだわった漢字の表現にしたい…」

メール・ビジネス文書・手紙・SNS への投稿・創作活動など、日々の生活や仕事で、漢字の悩みは尽きることがありません。

本書では、そんな悩みにおこたえするべく、ふだんの生活の中で使い分けに迷う漢字を選んで収録し、使い分けのポイントを示しました。

使いたい漢字を探す場面で役立てていただけるよう、使用例をできるだけ豊富に示し、漢字を使い分けるヒントや語彙力アップにつながる情報などを示すよう努めました。

「相手に誤解のないよう正しく伝えたい」、「自分の気持ちにより近い意味の漢字で表現したい」という思いを後押しし、調べてひと手間かけようとする、その温かいお気持ちに少しでも寄り添う辞典であれと思います。

本書を通して皆さまの言葉の地平がますます広がってゆきますことを願ってやみません。

漢字の使い分けに迷うすべての人に——
さまざまな機会に皆さまのお役に立てば幸いです。

2023 年 3 月 三省堂編修所

この辞典の使い方

この辞典に収録した言葉

約600項目／約1,600字

ふだんの生活で使い分けに迷うことの多い、異字同訓と同音異義語を取り上げました。

- 異字同訓…意味が似ていて同じ「よみ(訓)」になる漢字
- 同音異義語…同じ「よみ(音)」で意味の異なる語

この辞典の見方

- 見出し —————→ **きてん**
- 表記 —————→ **【起点】**
- 解説 —————→ 物事が始まったり生じたりする点。
 (類)始点・出発点 (因)終点
- 用例 —————→ (例)東海道の起点。広場を起点とするマ
 ラソンコース。攻撃の起点。

【基点】

距離などを測ったりするときの基になるところ。行動や考えの基になるところ。(類)原点・定点

(例)駅を基点として半径10キロの範囲。過去の実績を基点に考える。

- コラム —————→ **①**
「始まり」を表す場合には「起点」を使い、「基・中心になる部分」を表す場合には「基点」を使う。

→ の右にある
見出しを参照
してください

- 参照見出し —————→ **あげる** →あがる・あげる

- 見出しの配列は五十音順

- 表記 ……… 見出しを漢字でどう書くか

【返】 「常用漢字表」(2010年内閣告示)に記載のある漢字・「よみ」

【反[▽]】 ▽ 「常用漢字表」の音訓にない漢字の「よみ」

【孵[▼]】 ▼ 「常用漢字表」にない漢字

▽や▼の印がついた漢字を使う場合には、かな書き(=ひらがなで書く)か、読みがなをつけると、より親切です。

送り仮名は、原則として「送り仮名の付け方」(1973年内閣告示、2010年一部改正)の「本則」と「例外」に従いました。

- 解説 ……… その語の基本となる語義を簡潔に示しました。

例えば、見出し語が「かえる・かわる(変える・変わる)」の場合、それぞれの語に対応させて、語義を「前と異なる状態にする。前と異なる状態になる」とはせず、2語の共通語義という扱いで、「前と異なる状態になる」だけを示しました。

(類) 類義語を示しました (因) 対義語を示しました

- **用例** …… 使い方がわかる例を豊富に示しました。
太字は、「表記」を表します。
- **コラム** …… それぞれの漢字の使い分けがわかるポイントや、「表記」には載っていないプラスアルファの表記情報、漢字や表現にかかわるお役立ち情報などを示しました。
太字は、「表記」で示した漢字やその他の表記情報を表します。
- **さくいん** …… 巻末の「さくいん」から、知りたい「よみ」の漢字を引くことができます。

あ

あう

【会う】

人と人が顔を合わせる。出会う。㊦別れる

㊦3時に客と会う約束をした。知人とばったり会う。人に会いに行く。投票に立ち会う。2人が出会った場所。

【合う】

一致する。調和する。互いにする。

㊦計算が合う。呼吸が合う。好みに合う。部屋の雰囲気に合う。会議で話し合う。競い合う。意見が合う。答えが合う。目が合う。割に合わない仕事。幸運に巡り合う。

【遭う】

思わぬことや好ましくない出来事に出くわす。経験する。

㊦にわか雨に遭う。災難に遭う。思い掛けない反対に遭う。

【遇う】

思わぬことや好ましくない出来事に出くわす。経験する。

㊦にわか雨に遇う。災難に遇う。思い掛けない反対に遇う。

【逢う】

人と人が顔を合わせる。出会う。㊦別れる

㊦恋人に逢いに行く。2人が出逢った

場所。

「会」は、おもに人と人が顔を合わせる場合に使うが、ペットや芸術作品など、その人にとって価値のあるものなどに接する場合にも使われる。「駅でばったり友人とあった」の「あう」については、「思わぬことに出くわす」という意味で「遭」を使うこともあるが、「友人と顔を合わせる」という視点から捉えて、「会」を使うのが一般的。「巡りあう」の「あう」についても、「互いに出くわす」意味で「合」を使うが、「出くわす」ものが人同士の場合には「人と人が顔を合わせる」という視点から捉えて、「会」を使うこともできる。「であう」は、「クマに出合う」「2つの道路が出合う」「事故に出合う」など、人以外のものや好ましくない出来事の場合は「出合う」を使うことが多い。物事に偶然出くわしたときに「遇」、文学作品などで恋人や親しい人と「あう」ときに「逢」が使われることがある。

あからむ

【赤らむ】

赤くなる。実が熟す。

㊦ほおが赤らむ。赤らんだ顔。夕焼けで西の空が赤らむ。梅の実が赤らむ。

【明らむ】

明るくなる。

例朝日が差して部屋の中が**明**らむ。東の空が**明**らんでくる。

①「赤」は、顔や肌が赤くなるときによく使われる。

あかり

【明かり】

光、光線、明るさ。明るい状態。
例絶望の中に**明**かりがさす。雪**明**かり。

【灯[▽]】

周囲を明るくするもの。
例ランプの**灯**をともす。**灯**をつける。
街の**灯**が消える。

②「明」は「光、明るさ」という意味で広く使われ、自然の光にも人工的な光にも使われる。「灯」は、「ランプの**灯**」「街の**灯**」など、人工的な「あかり」に使う。

あがる・あげる

【上がる・上げる】

位置や程度が高いほうに動く。声や音を出す。家や部屋に入る。風呂や川、プールなどから出る。与える。終わる、できあがる。例のぼる ③
落ちる・さがる
例気温が**上**がる。2階に**上**がる。歓声が**上**がる。どうぞお**上**がりください。風呂から**上**がる。成果が**上**がる。これで**上**がりだ。地位が**上**がる。雨が

上がる。花火が**上**がる。料金を引き**上**げる。お祝いの品物を**上**げる。腕前を**上**げる。

【揚がる・揚げる】

空中に浮かぶ。気持ちなどが高まる。場所を移す。油で調理する。高いほうへ移す。

例国旗が**揚**がる。花火が**揚**がる。意気が**揚**がる。風を**揚**げる。天ぶらを**揚**げる。船荷を**揚**げる。海外から引き**揚**げる。

【挙がる・挙げる】

はっきりと示す。結果を残す。執り行う。こぞでてる。捕らえる。

例手が**挙**がる。例を**挙**げる。勝ち星を**挙**げる。式を**挙**げる。全力を**挙**げる。犯人を**挙**げる。国を**挙**げて取り組む。

④風や花火などは、「高いほうへのぼってゆく」ことに重点を置く場合は「**上**」を使うが、「空中に浮かぶ」ことに重点を置く場合は「**揚**」を使う。値段が高くなることを表すときは「**騰**」を使うこともある。

あきる

【飽きる】

満足して、それ以上はほしくなくなる。同じことが続いて、それ以上は続けたくなくなる。例食傷する

例豪華な料理も、もう**飽**きた。ゲームにも**飽**きた。単調な作業に**飽**きる。

【厭[▽]きる】

嫌になって、それ以上、やったり近づいたりしたくなくなる。例厭[▽]ど・厭世・厭戦

例争いはもう**厭**きた。人間関係に**厭**きる。

⑤一般的には「**飽**」を使う。「**厭**」を使うと、強いニュアンスを表現することができる。「たくさん**宿**題にあきた」「言い訳は聞きあきた」など、疲れたり困ったりして、やる気が起こらなくなる場合に「**倦**」を使うこともできる。

あく・あける

【明く・明ける】

目が見えるようになる。期間が終わる。遮っていたものがなくなる。例暮れる

例子猫の目が**明**く。らちが**明**かない。夜が**明**ける。年が**明**ける。喪が**明**ける。悩みを打ち**明**ける。

【空く・空ける】

からになる。間が離れる、隔たりができる。暇になる。例うめる・ふさぐ

例席が**空**く。空き箱。隙間が**空**く。手が**空**く。家を**空**ける。時間を**空**ける。

【開く・開ける】

閉まっていたものがひらく。営業を始める。穴ができる。例閉まる・閉

じる
例幕が**開**く。胃に穴が**開**く。ドアが**開**かない。窓を**開**ける。店を**開**ける。そっと目を**開**ける。

⑥シャツやドレスなど、肌の露出が多いときは「胸の**明**いたシャツ」「胸の**開**いたシャツ」のように、「**明**」を使う場合も「**開**」を使う場合もある。

あげる → あがる・あげる

あし

【足】

足首から先の部分。移動の動作に見立てたもの。移動の手段。食べ物などの腐り方。例手

例足の裏。足で稼ぐ。路線バスは市民の**足**だ。もやしは**足**が早い。**足**に合わない靴。**足**しげく通う。逃げ**足**が速い。出**足**が鋭い。客**足**が遠のく。**足**が出る。雨**足**。^{あし}

【脚】

胴から下に伸びた部分。また、それに見立てたもの。

例脚の長い動物。脚の線が美しい。雨脚^{あし}。

⑦「**足**」は「脚」との対比では「足首から先の部分」を指すが、「**足**を組む」「**足**を伸ばす」など、「胴から下に伸びた部分」を指すこともある。そのため、「テーブルの**あし**」「机の**あし**」のように物の下について全体を支える「**あし**」

は「足」を使うことも「脚」を使うこともある。また、「浮き足立つ」「足を向けて寝られない」など、慣用的な表現では「足」を使うことが多い。専門的な表現として、哺乳動物には「肢」を使うことがある。

あずかる

【預かる】

保管や世話を一時的に引き受ける。責任をもって引き受ける。保留する。

○預ける

○落とし物を預かる。ペットを預かる。人命を預かる。勝負を預かる。

【与[▽]る】

関係する、参加する。目上の人からよい待遇をもらう。○関与する・参与する

○相談に与る。国政に与る。与り知らないことだ。お褒めに与る。恩恵に与る。ご紹介に与りました…でございます。

▽

「与」は、「相談にあずかる」「お褒めにあずかる」など、現在ではかなで書くことが多い。

あだ

【仇[▽]】

仕返しをしたりうらみを晴らしたりしたいと思っている相手。仕返し、うらみ。相手にとって悪いことや害に

なること。○かたき

○仇を討つ。恩を仇で返す。好意を仇で返す。

【寇[▽]】

仕返しをしたりうらみを晴らしたりしたいと思っている相手。仕返し、うらみ。相手にとって悪いことや害になること。○かたき

○寇を討つ。恩を寇で返す。好意を寇で返す。

【徒[▽]】

期待したような成果がでないこと、かえって悪い結果を招くこと。形だけで実質がないこと。○逆効果・徒勞

○親切が徒になる。徒な努力だ。徒花。

【婀[▽]娜[▽]】

なまめかしい様子、色っぽい様子。

○彼は彼女の婀娜なところに惹かれたようだ。

▽

「寇」は、「仇」と同じ意味で使われ、「敵」が使われることもある。「婀娜」は、現在ではかなで書くことが多い。

あた

【値】

値打ち。文字や式などが表す数。

○値千金。賞賛に値する。一見に値する。Xの値を求めよ。

【価】

値段、価格、金額、代金。

○商品に価をつける。どのぐらいの価になりますか。

▽

「値」は広くいろいろなものに使うのに対して、「価」は金銭に限定して使われる。

あたたかい・あたたかだ・あたたまる・あためる

【温かい・温かだ・温まる・温める】

ものの温度がほどよく高い。人柄や雰囲気・態度にぬくもりが感じられて心地よい。愛情がこもっている。○冷たい・冷ややか

○温かいスープ。人柄が温かい。温かいもてなし。温かな家庭。心温まるエピソード。牛乳を温める。

【暖かい・暖かだ・暖まる・暖める】

気温がほどよく高くて心地よい。肌にはほどよいぬくもりを感じる。○寒い・ぬるい

○暖かい日差し。日ごとに暖かくなる。暖かな春の日。暖かなセーター。ふところが暖まる。暖まった空気。部屋を暖める。

▽

「冷たい」の反対の意味のときは「温」を、「寒い」の反対の意味のときは

「暖」を使うと考えると使い分けの判断がしやすい。「暖」は太陽や日差し、火を連想させる。

あたる・あてる

【当たる・当てる】

触れる。的中する、命中する。合致させる、対応させる。引き受ける。答えを確かめたり手がかりを求めたりする。害を受ける。ほかの人に感情をぶつける。光や雨などにさらす。○あてがう・該当する・相当する ○外す・外れる

○火に当たる。くじ引きで当たる。推測が当たる。任に当たる。辞書に当たる。毒に当たる。いらいらして人に当たる。ボールを壁に当てる。矢を的に当てる。おでこに手を当てる。かなに漢字を当てる。

【充てる】

ほかに使うおんを、ある目的や用途のために振り向けて使う。○充当する・補充する

○ボーナスを生活費に充てる。休日は勉強の時間に充てる。後任に充てる。地下室を倉庫に充てる。

【宛てる】

手紙などの届け先とする。

○編集部宛てて送る。小社宛てに御返信ください。手紙の宛先。

【中る・中てる】

ねらい通りになる。やられる。㊦的
中する ㊦外す・外れる

㊦的に中る。毒に中る。暑さに中る。
予想を中てる。

一般的には「当」を使う。ある目的の
ために振り向けるとき「充」を使ったり、
届け先とするときに「宛」を使ったり
すると意味をよりはっきり示すことが
できる。「ねらい通りになる」ときや
毒などに「やられる」ときは「中」を使う
こともできる。

あついで

【熱い】

温度がとても高い。感情が高ぶった
状態だ。㊦クール・冷たい

㊦熱いフライパン。熱い視線。熱い声
援を送る。お茶が熱くて飲めない。
熱い湯。熱くなって論じ合う。熱い
思い。鉄は熱いうちに打て。

【暑い】

汗が出たり不快に思ったりするくら
い気温が高い。㊦寒い・涼しい

㊦今年の夏は暑い。暑い部屋。暑さ寒
さも彼岸まで。日中はまだまだ暑い。
暑がり屋。

【厚い】

幅や高さがある。たくさん重なって
ぎっしり詰まっている。細やかだ。

心がこもっている。㊦深い ㊦薄い
㊦厚い壁。厚く垂れこめた雲。厚い志。
層が厚い。手厚く保護する。厚く御
礼申し上げます。

【篤い】

病気が重い。ひたむきだ。㊦危篤・
重篤・篤実

㊦病が篤い。篤い信仰心。篤く御礼申
上げます。

「熱」は温度一般が高い場合に使われ
るが、「暑」は気温や室温が高い場合
に使う。

あてる

→あたる・あてる

あと

【後】

順序や時間などが遅いこと。次に続
くもの。それ以後。それ以外、残り。
背中の方、後ろ。去っていった方
向。㊦先・前

㊦後回しにする。事件の後。後に続く
世代。後のバス。後はよろしく。後
へは引けない。後を追う。後の祭り。
後から行く。後になり先になり。事
故が後を絶たない。社長の後継ぎ。

【跡】

通り過ぎたところに残された印。何
かが行われたり存在したりした印。
家督。

㊦車輪の跡。足跡。住居跡。苦心の跡
が見える。争った跡がある。店の跡

継ぎ。船の通った跡。立つ鳥跡を濁
さず。父の跡を継ぐ。

【痕】

傷や被害を受けた印。傷のように
生々しく残る印。

㊦傷痕が痛む。台風の爪痕。手術の
痕。壁に残る弾丸の痕。

【迹】

通り過ぎたところに残された印。何
かが行われたり存在したりした印。

㊦車輪の迹。足迹。住居迹。苦心の迹
が見える。争った迹がある。

【址】

建物などがあった印。残された土台。

㊦城址。古蹟の都の址。

順序や時間が遅いことを表すときは
「後」を使い、何かの印を表す場合は
「跡」を使う。印の中でも特に「傷や被害」
に関わるもの場合は「痕」を使う
と意味をよりはっきり示すことができ
る。「跡」の代わりに「迹」が使われる
ことがある。建物の「あと」の場合は
「址」を使うこともできる。

あぶら

【油】

常温で液体状の「あぶら」(おもに植
物性・鉱物性)。ガソリン、動力や活
力のみなもと。

㊦油でいためる。ごま油。油が切れる。

事故で油が流出する。火に油を注
ぐ。水と油。

【脂】

常温で固体状の「あぶら」(おもに動
物性)。皮膚から分泌される脂肪。

㊦豚肉の脂。脂身。脂が乗る年頃。鼻
の脂。脂ぎった顔。脂汗が出る。

マーガリンやバターなど、調理に使
う「あぶら」は「油」を使うことが多い。
「あぶらっこい」は、天ぷらなど調理
油で揚げたものは「油っこい」、肉料
理など肉の「あぶら」のせいであぶ
らっこい場合は「脂っこい」を使うこと
が多い。

あやしい

【怪しい】

正体のはっきりしなくて不安を感じ
たり、気味が悪かったりする。疑わ
しい、様子がおかしい。普通でない。
㊦おぼつかない・奇怪

㊦怪しい人影を見る。怪しい行動。答
えが怪しい。雲行きが怪しい。約束
が守られるか怪しい。挙動が怪しい。
怪しい声がする。

【妖しい】

正体のはっきりしないものに魅力
を感じる。なまめかしい。神秘的な感
じがする。㊦妖艶

㊦妖しい魅力。妖しい微笑。妖しく輝
く瞳。宝石が妖しく光る。